

令和元年 10 月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

10月の業種別景況の前月比DI値は14業種の内、好転が3業種、前年同等が6業種、悪化が5業種で、全体の景況感DI値も9月より悪化している。

印刷、サービス業からは消費増税の影響はほとんど見られないとの報告であるが、食料品、小売業、運輸業からは消費増税により売上や収益が悪化したとの報告である。

山口県の中小企業は、多くの業種で深刻な人手不足が続いており、人材確保に苦労している。また、引き続き消費増税の影響を注視していく必要がある。

山口県の主要指標 DI 値（令和元年 10 月末現在）

※DI値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI値〉）

前年同月比は、好転：2.5% 悪化：35.0% DI値：▲32.5% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI値〉）

前年同月比は、増加：15.0% 減少：38.8% DI値：▲23.8% ポイント

収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI値〉）

前年同月比は、好転：11.3% 悪化：33.8% DI値：▲22.5% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和元年 10 月末現在）

				
30 以上	30 未満～ 10 以上	10 未満～ ▲10 以上	▲10 未満～ ▲30 以上	▲30 未満

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲57.1	▲25.0	▲66.7	▲50.0	▲16.7	▲11.1	0.0	▲30.3
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製造業
▲20.0	▲55.6	▲75.0	▲36.4	▲10.0	▲28.6	0.0	▲34.1
							

全 体

▲32.5



特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	<p>プレミアム商品券は現金が券に変わっただけで消費向上の効果は薄い。キャッシュレス化は進んでいない。8%、10%の帳票整理の理解ができていない組合員が多い。</p>	<p>パン・菓子製造業 山陽小野田市</p>
	<p>消費税の増税にともない、外食産業や給食の売上が減少した。また、増税の関係でシステムの変更が生じ収益が悪化した。</p>	<p>パン・菓子製造業 下関市</p>
	<p>10/24日時点の売上は対前年同月比ほぼイーブンで推移。3連休の台風の影響で13日に予定されていた「萩さかな祭り」が中止されるなどマイナスの影響があったが、22日の祝日が一日増えたことでカバーした感じである。キャッシュレス導入は本来10/1スタート予定であったが、決済事業者の不手際等により開始が遅れ、10/21からの導入となった。5%還元の効果はある程度出ており、特に飲食部門でのクレジットカード利用率が従前の10%程度から20%強まで増加した。</p>	<p>水産食料品製造業 萩市</p>
	<p>10月以降の消費低迷が懸念事項。システムなどの対応が大変面倒。運送費の値上げ要求が高まり、非常に困っている。食品の値上げも続いているが、消費に結びつくかは不透明。</p>	<p>水産食料品製造業 下関市</p>
	<p>10月は、大型台風があいついで襲来し、気候変動による病害虫の被害が拡大するなど、地球温暖化の影響に、企業経営における天候リスクがさらに高まってきている。大雨による被害も続いており、突然の自然災害へ対応できるような、農産物の売り上げに関する保険制度のような仕組みづくりが必要になってきている。地球温暖化をこれ以上進めないためにも、二酸化炭素を排出しないような社会づくりが重要となる。アメリカがパリ協定の離脱を表明するなど、二酸化炭素を排出しない社会づくりに厳しい状況が出ているので、電気自動車の普及対策や水素ステーションの充実などが必要となってきている。</p>	<p>精穀・製粉業</p>
繊維工業	<p>前年比で発注数量が少ないものの、年内の受注は確保出来そうである。</p>	<p>外衣・シャツ製造業 萩市</p>
	<p>現在は人員の入れ替え時期で、仕事量は十分であるが生産高が追いつかない。来月になれば回復する。</p>	<p>外衣・シャツ製造業 山陽小野田市</p>
木材・木製品	<p>製材所8社中の2社において雇用人員が減少。販売価格は消費増税により上昇したが、売上は減少傾向。</p>	<p>製材業・木製品製造業</p>
印刷	<p>消費増税による需要増が期待されたが、ほとんど恩恵はなかった。</p>	<p>印刷 下関市</p>

	受注も少なく、工場も稼働していなかった。	印刷 山口市
窯業・ 土石製品	10月の出荷量は、前年度と比べると、かなり数量が減ってきている。 (平成30年10月) 骨材83%、路盤材136%、再生材104% ↓ (令和元年10月) 骨材99%、路盤材 76%、再生材 79%	砕石製造業
	出荷量は、前月比116%、前年同月比101%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。	生コンクリート製造業
	消費税増税のためか、9月中の見積もりだと消費税が8%と思ったのか、9月末から見積もり依頼が増えた。9月中の見積もりでも、10月以降の工事の場合は10%で作成したが、お客さんから「もう10%になっている!」との声があった。消費税分の値引き依頼もあるが、企業の利益ではなく国に収める税であると言う事を理解して頂き、国も徴収した税金が何に使われているのか、もう少し細かく報告する義務があると思う。	石工品製造業
	10/11(金)~14(月)「秋の萩焼まつり」(当組合から3社が参加)が行われたが、来場者がこれまでで1番少なく、売上もかなり落ち込む結果となった。特に12日(土)は台風19号の影響で非常に風が強く、時折突風が吹く悪天候であった。交通機関では予定運休が行われ、関東方面からの観光客にかなりの影響があったと思われる。10/26~27に東京都世田谷区で行われた松陰神社まつり(当組合から2社参加)も、来場者・売上ともに減少となった。ギフト・卸関係・百貨店の受注は昨年と比較しやや減少。これは、利益率の高い受注を目指し取捨選択している事から減少となった。10/15萩焼協同組合の全体会議で11月以降の事業について話し合い、また、新たに1名の入会希望があり承認された。これで、組合員は10名となった。	陶磁器・同関連 製品製造業
一般機器	9月から続いて周南コンビナートの定期点検のシーズンとなっているので、各社、売上は好調であった。	下松市
	依然として人手不足は深刻であり、外国人を含めた多様な採用形態を検討している。	周南市
	10月の景気は、組合内部で若干の温度差があるが、9月とほぼ同様であった。自動車関連は、若干持ち直した様子。特に県西部方面の大型構造物の製作は年内順調な模様である。国外のベトナム、マレーシアなど東南アジア関係の工事を受注の会社は、残業で追い込	防府市

	<p>みをかけている。相変わらず、政治がらみの貿易、関税など米・中・韓との関係が気になりである。</p> <p>食肉加工、惣菜、自動車関係等実習生を受入れている大半の職種で業績は好調。但し、米中貿易摩擦の影響か、半導体関連で業務量の減少傾向があり不透明な状況が続いているが、来春には回復するとの情報もあり、人員の確保に舵を切り始めている。今後、日韓の貿易摩擦も含め、どの程度の影響があるか状況の把握に努める必要がある。介護職については来年2月の受入れが決定。増員の希望があるため来年度の準備を進めている。制度改正に伴う、3号移行者の入国も順調。即戦力として活躍している。特定技能については、登録支援機関の認可を得たので、来年2月に1期生受け入れの準備をしている。今後とも外国人の受入れは増加するものと考えている。</p>	宇部市
輸送機器	<p>鉄道車両では輸出がひと段落したが、他の案件もあり作業量が多い状況が続いている。半導体は高い作業量水準が継続している。産業プラント部門が少し減少気味ではあるが全体的に作業量には恵まれている。来年の週休二日制に向け労務管理と作業効率を図るべく各社で検討中である。</p>	鉄道車両・ 同部品製造業
卸売業	<p>倉庫の入出庫の荷の動きが少なく、売上が前年同月比で初めて9%減収となった。</p>	乾物卸売業
	<p>天然ふく、養殖ふくともに入荷が少なく高騰している。鮮魚も入荷が少ない。台風の影響はかなり大きいといえる。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>日用雑貨等（トイレットペーパー他）の動きが鈍い。</p>	各種商品卸売業
小売業	<p>9月末が近づくにつれて増税前の駆け込みが多かった店があったが、そのほとんどがテナント店であった。10月に入ると客足が遠のいている模様である。毎年10月に10%キャッシュバックをテナントとともにやっているが、その時期の売上は良かった。キャッシュレスのポイント還元より目先の値引きの方がやはり分かり易く受け入れ易かったと思われる。毎年10月に資生堂の美容食品コンテストを行っていたが、中止となったので売上は全体的に下がるかもしれない。</p>	化粧品小売業
	<p>全体に家電の売上は悪かった。</p>	機械器具小売業
	<p>物販業・飲食サービス業とも小売業界は総じて悪化。本来は上向きに推移するべき秋の立ち上がりが悪いのは、あらゆる業種業態で決算に向けた重篤な問題となるだろう。推測される原因は消費税だが、増税ではなく、キャッシュレス決算や軽減税率など複雑な手続きと甚だしい遅延や手違い、政治家や行政による予測予見の誤りが招いた消費現場の混乱。2%の増税だけな</p>	各種商品小売業 岩国市

	<p>らもっとスムーズに運んでいた事は容易に想像できる。加えて大型台風による災害は、今回も期待感を失わせ、閉塞感が助長された。</p>	
	<p>例年通り秋のイベントが始まっている。</p>	<p>各種商品小売業 周南市</p>
	<p>10月は、「れとろまつり」、「中浜市場祭り」、「時代祭り」とイベントが毎週のように開催され、商店街内の来客数が増加した。来月もイベントがあるので、年末に向けて勢いを付けて行きたい。</p>	<p>各種商品小売業 下関市</p>
	<p>先月も報告したが、酒のディスカウント店が急遽退店となり売上が大きくダウンし、前年同月比ほぼ5割となった。合わせて、消費増税も影響していると思われる。</p>	<p>各種商品小売業 長門市</p>
商店街	<p>若干増税による消費の鈍りを感じる。商店街ではキャッシュレスの動きも弱く、プレミアム商品券の効果もあまりないように思われる。</p>	<p>宇部市</p>
	<p>10月はイベントの効果が多少あった様子。飲食店を中心に食材を扱う店の売上は若干の伸びの模様だが、衣類の店が伸び悩みの模様である。10月に入って消費税関係の話はあまり出ないが、話を聞くと8%、10%の分類はしているが帳簿はわかる範囲で記入し後で修正するとのことであった。</p>	<p>萩市</p>
サービス業	<p>消費税10%の影響があった。9月は月を通して快調で前年同月比5%増であったが、10月が終わってみれば前年同月比で5%減で終りそう。</p>	<p>美容業</p>
	<p>消費増税のもとで心配したが、現在のところ影響は見られない。</p>	<p>理容業</p>
	<p>自動車業界全体では100年に一度の大転換期を迎え、自動車の新技術に対応した点検整備や車検を実施する必要が出てきており、本年5月に道路運送車両法の改正がなされた。1年以内に法律が施行されることになっており、整備工場には新技術に対応した設備や技術的的確な整備サービスの確実な提供が求められることになり、これに対応できない整備工場も出てくることも考えられ、整備工場にとっては厳しい時代を迎えることになる。</p>	<p>自動車整備業</p>
	<p>人手不足が継続中。消費増税の影響はあまり感じない。</p>	<p>スポーツ・健康教授業</p>
	<p>業界の10月は秋の衣替えで売上の高い時期だが、今年は真夏日と呼ばれるほど気温も高く消費者の衣替えが進まず売上が伸び悩んでいる。10月からの消費増税前の駆け込み需要の反動もあるといえる。しかし、10月中旬過ぎより再び気温も下がり始め、売上増加の巻き返しの傾向のある業者も見られた。</p>	<p>普通洗濯業</p>

	J Rの計画運休他台風による旅行中止等キャンセルが多かった模様。9月の駆け込み需要の反動で10月分の発券が少なかった模様である。	旅行業
	対前年同月比で宿泊人員76%、売上80%と大幅な前年割れとなった。平成29年9月からはDCキャンペーンが始まり、平成30年9月14日からは「花博」が開催されたが、今年はそういったイベントがないことが一因と考えられる。	旅館業 山口市
	9月の山陰道 長門・俵山道路開通や10月のラグビー関係等をマスメディアが取り上げ、情報の発信ができた。入浴者数の増加となったが、収益の回復には至らなかった。	旅館業 長門市
	宿泊は伸びているが、宴会が減少。受入態勢はあるが、台風の影響のあった出発地の関係でキャンセルが続出した。	旅館業 下関市
	団体の予約が多かった。	飲食業
建設業	中電への工事申請167件(当支部145件)、前年同月190件(同127件)。太陽光発電への申請35件(前年33件)、オール電化申請99件(前年88件)。LED街路灯への切り替え・新設申請21件(前年33件)であった。	電気工事業
	全般的に工事量は減っている。その中で忙しい事業所と暇な事業所の差が大きくなっている。来春卒業見込みの高校新卒者の求人活動が4～5年前と比較し厳しさを増している。	左官業
	順調に発注がなされており、10月はまあまあの天候で順調に仕事をこなし忙しくしている。作業員、ガードマンの人員不足は相変わらず深刻である。以前は先の大規模入札分をこなしている間に次の大規模入札に参加し早々に仕事を準備していたが、人員の確保が難しいため、先の小規模の仕事を完了させてから、次の小規模入札に参加し、次の仕事を準備するようになっており、大規模な事業の入札には参加できなくなっている。全国各地で災害復旧工事がされているが、この状態で災害復旧工事が出た場合を想像すると不安な面がある。この前までは一般土木関連業者等も入札に参加していたが、人手不足が深刻な中、本来の仕事が忙しく、管工事の入札参加が無くなってきている。	管工事業
	10月は、各社受注工事の消化に忙しそうですが、新築着工物件のうち瓦屋根の物件の減少が著しく、先行き大いに不安な状況。	屋根工事業
	手持ち工事量は確保しているものの、見積件数が減ったとの声が多い。	鉄骨・鉄筋工事業

	受注は多く各社とも手一杯の様子であるが、災害工事が主であるので収益については微妙である。各社とも人材の確保について苦勞しており、農業関係の災害工事については受注意欲が少ない様子。人力に頼る部分が多く、工事期間が長くなり、収益について問題があるからではないかと思われる。	土木工事業 柳井市
	10月の受注高は、対前年同月比82.5%。今年度の累計は、対前年比86.4%。	土木工事業 萩市
運輸業	輸出6、国内4の割合の輸送量となったが、消費税10%となり輸送量も減少し、売上は対前年同月比で10%強の減となった。保管物資が増加しつつあるということは物流の停滞率が高くなってきている。燃料費は0.5円の値上げ。燃料の使用量も輸送量の減少に伴い、購入量も1.5%の減少。	一般貨物自動車運送業 下松市
	今月の輸送売上高は、前年並みとなる見通し。しかしながら、下期11月以降は、前年割れの予想。燃料費に関しては若干上昇したが落ち着いている。	一般貨物自動車運送業 防府市
	荷物輸送案件は先月からほぼ横ばいといった感じだが、倉庫保管案件は増えている。人員の確保には相変わらず苦勞している。求人についても業務依頼案件に関してもこのところインターネットを通しての募集・依頼が増えている。他社との差別化を図れるようなHPの構築なども工夫していきたい。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比▲10.8%（令和1年9月1日～令和1年10月20日分）。9月1日～30日分は▲9.95%、10月1日～20日分は▲12.0%です。消費税増で料金が改定されたが、利用量回数が大幅に減少したため、10%を越える減少になっている。当組合の取扱いタクシー事業者は、光市、下松市、周南市、防府市の地域。9月分については、周南▲6.7%、下松▲12.7%、光▲16.9%、防府市地区が▲12.2%で、組合員の全域では▲9.1%、地区外（員外）▲20.4%、合計▲10.0%（▲2,070千円）。昨年、企画事業（周南すもう、徳山競艇記念競走）、事故（大島大橋、豪雨災害でJR山陽本線不通）の影響もあると思われるが、得意先別の増減については、全体として大幅な減少になっているように思う。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。CPが上がり（前月360.0\$/トンが今月397.5\$/トン、645.0\$/トン）、輸送用バンカーC重油も上がった。（前月381.0\$/トンが今月458.0\$/トン、前年468.0\$/トン）。為替は円安（前月107.32円/\$が108.45円/\$）。燃料単価は前月より+4.92%上昇したが、前年9月分比は▲21.0%と下がっている。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足し	一般旅客自動車運送業

	<p>ている。前年同月の臨時需要の反動もあるが、消費増税による個人消費の冷え込みが、年末の繁忙期までに回復することを願うばかり。</p>	
	<p>10月も対前年比で取扱高は減少した。但し、今のところ大きな変化とは捉えなくて良いと推測している。</p>	港湾運送業
<p>その他 非製造業</p>	<p>9月下旬よりパート1名を雇用。新規の技能実習申請手続きも忙しくなり、実習開始以降の定期訪問指導の件数も増加してきている。これからも、組合員である実習実施者様のご負担・ご心配を軽減できるよう、皆でサポートする。</p>	介護事業